

# 周産期母子相互作用の臨床的研究

竹内 正 七（新潟大学医学部産婦人科教室）  
吉 沢 浩 志（ ” ” ）

## 研究計画

母子相互作用における周産期管理の重要性が認識され、とくに high risk pregnancy, high risk infant の治療にあたる事の多い大学病院においても、専門的医療の中でこそ人間的な立場での母子相互作用の確立に努める必要がある。

当教室では周産期母児管理の一環として NICU に準じた機能をもつ異常新生児室を設け、院内外で出生する high risk infants の治療にあっている。

周産期医療の地域化の遅れている新潟県下の中で、早急な体制作りを行うとともに、地域医療の要めである周産期センターとしての役割を果たすためには、母子相互作用促進のための努力も当然の事として行う必要があり、以下の研究を予定した。

### (1) 周産期における妊婦の心理的变化

従来より妊娠・分娩における身体的、精神的変化が報告されているが、low risk pregnancy high risk pregnancy をともに管理できる医療機関としての立場を活かし両群の妊婦に心理的な側面からアプローチを加え、より好ましい看護の在り方を考え、妊婦指導に取り入れる。

### (2) 母親学級の在り方

周産期医療の地域化を進めるにあたっては医療機関それぞれの連携はもちろんのこと、パラメディカル、行政側との連携も密にする必要がある。地域格差がみられる周産期管理にならないようにするには、地域における保健指導を充実させる事も大切であると考え、各施設で行われている母親学級の実態を調査し、母子相互作用における周産期の重要性を啓蒙して行く。

### (3) 疾病児をもつ両親の心理状況

長期間の親子分離を余儀なくされる病的新生児入院にあたっては、両親をはじめとする家族の心

理的動揺を和らげ、それぞれの親子関係に強いきずなが早期に確立されるよう努力する必要がある。従来の調査方法で新生児や乳児を対象とするものは数少なく、またその両親との関係を明確にできる方法論も少ないと思われるので、より具体的な調査方法にアプローチし、個別化した指導方法の確立ができるよう取り組む。

### (4) 家族看護 family care の具体化

疾病児をもつ家族の環境はそれぞれ異なっており、画一的な指導は難しいと言わざるを得ない。そうした中で問題点が浮き彫りにできるようなアンケートなりの調査方法が望まれるので、独自の調査方法の作製にあたる。

以上の研究を通して周産期センターの中における NICU での母子相互作用促進の努力を行う。

## 昭和58年度研究報告

初年度として妊娠・分娩が妊婦に与える心理的变化、妊婦健診におけるよりよい看護の在り方、周産期医療の地域化に向けて新潟県下の実態を主にアンケート方式で調査した。

(1) 妊婦の心理的变化に関しては、low risk pregnancy, high risk pregnancy 群とに分けて CMI 健康調査表、SRQ-D によるうつ病傾向による調査を行った。high risk 群では心理的变化の大きい事が判明したが、分娩時の異常、児の異常を伴う事も多く、個々の症例に対して妊婦の性格や生活背景をも考えての対応が重要である。

(2) 妊婦健診における看護の在り方は、現在アンケートを集計中である。

(3) 周産期医療の地域化に対する調査もまだ集計中の段階であるが、これらを基に地域の体制作りを行う考えである。